

1. 授業の概要(ねらい)

現在の私たちの日常生活において、宗教を強く意識する機会や局面は、少ないかもしれない。しかし、よく注意してみると、私たちが宗教と接する、あるいは接している場面は意外に多い。例えば、パレスチナ問題の淵源は、旧約聖書の記述に端を発していることを、どれだけの人が知っているだろうか。国際化の激流に飲まれていく日本／日本人にとって、宗教の知識は重要なリテラシーの一つとなっている。そこでこの授業では、宗教の持つ様々な側面や役割について、歴史の文脈を中心に、じっくりと見つめ直し、宗教に関する歴史的知見の涵養に努めることにする。

2. 授業の到達目標

- ・宗教に対する客観的な知識と把握の仕方を習得する。
- ・上記の方法を身につけることで、宗教への偏見や誤解を無くし、宗教と理知的に接する姿勢を習得する。

3. 成績評価の方法および基準

- ・日本の大学の単位修得が容易過ぎるとの批判を受けて久しいが、この授業では、成績評価を厳格に実施する。
- ・そのための具体的な方法は、以下の通りである。
 - ①複数回の講義内試験40% 中間試験30% 最終試験30%を基準とする。
 - ②レポートを課した場合、レポートの期限までの提出が、平常点に加味される。
*レポートの課題は、インターネットでのコピーによる安易な作成を防ぐために、高橋が配布した文献の内容に関する解答を中心としたものとなる。レポートは指定した講義日の開始時に回収する。
 - ③出席は単位認定を担保するものではない。つまり、皆勤であっても試験等の成績が悪ければ単位の認定は難しい。
 - ④講義時の態度も、単位認定および成績評価に反映される。

4. 教科書・参考文献

教科書

・特定の教科書は無いが、「参考文献」が、教科書に準じる教材となるので購入するように。

参考文献

棚次正和・山中弘編著 『宗教学入門』 ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

- ・高度に専門的な著作物を読む必要はないが、新聞、テレビのニュースなどで、宗教問題が取り上げられているかどうかを確認し、取り上げられていた場合は目を通しておくこと。
- ・少なくとも、この授業では、私語を慎み、分からない部分が多くても、将来の自分への自己投資と思つて我慢強く講義に臨むことを、自分に言い聞かせること。

6. その他履修上の注意事項

- ①「おしやべり」「電話」は厳禁とする。した場合この講義の履修を事実上「放棄」したものとみなし、即座に教室から退室してもらう。
- ②受講態度(遅刻、私語、内職、講義の途中退室その他)の悪い学生については、以後の出席を禁止することを考えている。
- ③試験は講義内容を踏まえ、じっくり考え、論理的に論述するような問題となるので、遅刻や欠席が多いと単位は不可能なので、この点も考えて受講を決めて貰いたい。
- ④インターネット上で、帝京大学在学生による、本学の評価を事前に調べ、そこに書かれている内容を自分なりに考えて貰いたい。
- ⑤大学の授業は高校の授業の延長では無いので、その積もりでいて貰いたい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 【第1回】 | ガイダンス(講義内容の説明、守るべき規範事項の説明、講義の進め方その他) |
| 【第2回】 | なぜ宗教史は必要なのか |
| 【第3回】 | 代表的宗教に関する「誤解」「無知」 |
| 【第4回】 | 宗教史に無知であるとうなるか |
| 【第5回】 | 講義内試験(持ち込み不可) |
| 【第6回】 | ユダヤ民族の歴史 |
| 【第7回】 | ユダヤ教の成立 |
| 【第8回】 | ユダヤ教の特色と「律法」 |
| 【第9回】 | 講義内試験(持ち込み不可) |
| 【第10回】 | イエス・キリストについて |
| 【第11回】 | キリスト教の成立 |
| 【第12回】 | キリスト教の展開と拡大 |
| 【第13回】 | 「聖」戦と「正」戦 |
| 【第14回】 | 講義内試験(持ち込み不可) |
| 【第15回】 | まとめと「試験」 |